

## 令和元年度 みんなで支える森づくり 北信地域会議(第1回)

- 1 開催日時 令和元年7月23日(水) 午後1時30分～午後5時00分
- 2 場所 北信中野庁舎201号会議室及び現場視察
- 3 概要 本会議では、みんなで支える森林づくり推進会議の設置及び運営に関する方針第2により設置し、第5により局長が招集している。第1回として、平成30年度の長野県森林づくり県民税事業の実績、森林づくり県民税に関する基本方針の見直し及び令和元年度の計画について、意見交換を行った。

特に、今回は北信地域で初めて「里山整備利用地域」に認定された飯山市小境地区の清水区長に同席してもらい、具体的な改善点などを話し合った。

#### 4 参加委員 (五十音順 敬称略) 7名 (清水委員は欠席)

(社)信州いいやま観光局なべくら高原森の家支配人	大西 宏志
NPO法人フォレスト工房もくり	榑原 倫代
栄村秋山地区 地域おこし協力隊	杉森奈那子
信州大学工学部建築学科教授 (座長)	高村 秀紀
中野市経済部農政課長	頓所 勲
北信州森林組合業務課長	堀澤 正彦
瑞穂木材株式会社 代表取締役	宮崎 正毅

#### 以下会議の概要

・会議開催前に中野市中央幼稚園内(H30年木質化事業)、山ノ内町志賀高原(観光地景観~事業)に全員で見学。長野県森林税が実際に導入されている現場を確認した。

#### <会議内容>

・平成30年度の森林づくり県民税活用事業の状況についての説明(事務局担当)

全県と北信地域の補助金額等の交付予定金額等を説明。その後、北信管内で活用されている事業地、事業内容を詳細に説明した。

(例)里山整備利用地域に認定された協議会がどのような事業を行っているかの説明、子供の居場所の木質空間整備事業を導入した幼稚園や事業内容の紹介、木工体験活動支援事業・森林セラピー推進支援事業・観光地等魅力向上森林景観整備事業の導入事例の説明、森林づくり推進支援金事業の説明、長野県森林税広報の活用事例、

・現地確認及び上記の説明に対する意見

- ① 全県に対する補助金額の比率を考えながら森林税を使っていくのではなく、地域のニーズに合った補助を。より地元で使える方法を検討してほしい。
- ② (森林税全体に対して)一般の県民への周知をより実施してほしい。

- ③ 年度単位で補助ができるというシステムではなく、申請したらすぐ補助金が出るような方法の長野県森林税を導入してほしい。具体的な方法としては地域会議で認証すれば補助金の交付ができるなど。

・平成 31 年度（令和元年度）の事業予定及び目標について説明（事務局）

平成 31 年度の事業実施予定の補助内容及び補助金額の説明を行った。

また、木工体験活動支援事業の事業主体予定である「おやまのおうち（山ノ内町）」の推薦に対する議決（？）を実施。本事業では実施主体の形態が要綱上に記載されていない場合、地域会議において推薦されると標記事業の主体として事業を行うことができるもの。満場一致で採択。

・上記に対する意見

- ① おやまのおうちについては積極的な活動を行っているので、是非森林税でのサポートをお願いしたい。
- ② 観光地等魅力向上森林景観整備事業については過去に木材生産のための人工林として植林したものを、景観確保のためすべて皆伐する性質を持つことから、事業の採択には慎重になるべきではないか。  
(林務課解答：本事業では切った木材を切り捨てるのではなく、搬出し利用していくよう依頼する予定)
- ③ 木工体験活動支援事業が本会議で議決されれば一般の団体でも使用できるのであれば、より広く募集できるような広報が必要ではないか。ホームページでの広報以外についてもご検討願いたい。

・長野県森林税全体の意見及びその他

- ① 森林税などの長野県が実施している事業が SDG s の推進に役立っているということをより公表したほうが良いのでは。
- ② 森林税の事業として子供たちがどのように山から木を伐りだし、製材し、自分たちの手元にある木製品になっているのかを知ることができるような事業を考えていただきたい。(いわゆる環境教育。SDG s にも通ずるとの意見も含む)
- ③ 東京に入る膨大な森林環境譲与税を長野県の山に還元する仕組みを考えてほしい。グリーンツーリズムのような山の中に入るもの、継続的に都会の人が長野県の山を整備し、整備した森の木材を持ち帰れるような仕組みなど。
- ④ 地域会議で発言した意見について、どのように今後の長野県森林税に反映されているのかを教えてください。
- ⑤ 森林税を入れた事業主体者の話を一般県民が聞くことのできる機会を設けてほしい
- ⑥ 学校のカリキュラムに木工体験を取り入れるなど、継続的に森林税で支援できる事業はいかがか。北信地域でも子供のためにボランティアで行ってはいるが、運営に係った人たちの謝金も出せない現実がある。